

## 2016年度 事業計画書

### 1. 図書館業務

#### (1) 収集

- ① 寄贈・寄託資料の受入
- ② 資料の購入
- ③ 寄贈・寄託事務の改善

#### (2) 整理

##### ① 寄贈・寄託および購入資料の整理

- 図書 大手出版社新刊ほか出版社・個人寄贈書 2500～3000冊  
竹内好文庫図書 約300冊 ほか
- 雑誌 出版社寄贈新刊、同人誌、会報、紀要 約7,000冊  
購入 約100冊（主に欠号補充）  
紅野敏郎文庫正本（継続）
- 特別資料 下島勲コレクション追加資料のうち日記、宛書簡  
沢木欣一・細見綾子資料（以上、2015年度から継続）  
犬田卯・住井すゑ文庫 原稿・書簡  
島崎蒔助コレクション 原稿・ノート類  
ほか 紅野敏郎文庫 書簡以外の肉筆資料、小川国夫文庫追加資料など

##### ② 図書・特別資料・雑誌副本の遡及入力

- 図書 一般書架配架の作品、全集正本  
特別資料 佐佐木信綱宛書簡ほか

#### (3) 閲覧等サービス

##### ① 閲覧

- 駒場本館 休館日＝日曜、月曜、第4木曜、年末年始、特別整理期間  
成田分館 開館日＝毎月第1、第3土曜日（12月の第3土曜日、年始を除く）

##### ② 資料複写、資料写真サービス

- ・視聴覚資料を閲覧室の専用コーナーで順次公開する。

### 2. 展覧会

#### (1) 館内展示

##### ① 春季展示 4月2日（土）～6月11日（土）

展示室改修記念「近代文学の150年—夏目漱石、芥川龍之介から戦後作家まで」

編集委員：安藤宏、池内輝雄、紅野謙介

川端康成記念室「川端康成をめぐる書簡」

##### ② 秋季展示 9月24日（土）～11月26日（土）

特別展「絵はがきの中の漱石—小生は人に手紙を書く事と、人からもらふ事が大すき—」

夏目漱石歿後百年記念

特別協力：岩波書店

編集委員：安藤宏、十川信介、中島国彦、長島裕子

川端康成記念室「川端文学のヒロインたち」

##### ③ 通常展 6月25日（土）～9月17日（土）、12月3日（土）～2017年3月25日（土）

「近代文学の名作 詩歌」Ⅰ、Ⅱ（レプリカ、複製版、写真などによる展示）。

④共同展示

「3.11 文学館からのメッセージ」（仮題）2017年3月4日（土）～3月25日（土）

(2) 企画展示の貸出し

(3) 出品協力

・「100年目に会う夏目漱石」（神奈川近代文学館 3月26日～5月22日）

3. 講座・講演会

(1) 第53回夏の文学教室「時代に触れ、文学を読む—明治」（読売新聞社後援）

7月25日（月）～7月30日（土）、有楽町・よみうりホール

(2) 声のライブラリー（石橋財団補助事業）

5月14日、9月10日、11月12日、2017年2月11日の各土曜日 午後2～4時、館ホール

・会の模様をビデオに収録し視聴覚資料の充実をはかる

(3) 資料は語る＜資料で読む「東京文学誌」Ⅱ＞（企画案別添）

前期：3回=4月・5月第3土曜日、6月第2土曜日／後期：3回=9～11月、各第3土曜日、館ホール

(4) 文学館演習—日本近代文学資料の探索と処理（企画案別添）

8月23日（火）～27日（土）、館ホール、午前10時～午後5時10分（1日4コマ、計20コマ30時間、2単位）

(5) 文学館へ行こう！

主に大学生・大学院生を対象とする文学館利用案内講座。春秋各2回、定員各回30名程度。

春=4月16日（土）、5月7日（土） 講師：中島国彦

秋=日時・講師未定

4. 刊行物

「日本近代文学館年誌—資料探索」第12号 2017年3月刊行

★第12号以降の紀要編集委員の選任について

5. 全国文学館協議会

総会の開催（6月第3水曜日=6月15日）、部会活動、会報の発行など

6. 広報

館報「日本近代文学館」の続刊

7. 創立50周年・開館45周年記念事業

文学館創立55年・開館50年記念『日本近代文学館1962-2017』（仮題）の刊行準備

8. 設備の改修工事

(1) 電動式集密書架の改修：F単位を予定（1825万円=2015年度修繕引当金を充てる）

（A～H単位総額で1億340万円=茂木電機見積。2014年度はD単位、2015年度はC単位の改修を実施。2020年度までの毎年、次年度分の修繕引当金を予算に計上し、2021年度まで毎年1単位ずつ改修を実施する）

## 2016年度 講座「資料は語る」開催要項

- 1 講座名 : 「資料は語る」
- 2 本年度タイトル : <資料で読む「東京文学誌」Ⅱ>
- 3 開講回数 : 前期3回・後期3回 計6回
- 4 日 程 : 前期 4月16日(土)・5月21日(土)・6月11日(土)  
後期 9月17日(土)・10月15日(土)・11月19日(土)
- 5 開講時間 : 各回とも午後2時から午後3時半(質疑応答含む)
- 6 定 員 : 40名
- 7 会 場 : 日本近代文学館講堂(目黒区駒場4-3-55 駒場公園内)
- 8 受講料 : 全期間(6回)10,300円/前期または後期5,200円/1回のみ2,100円  
※会員はそれぞれ一割引(全期間9,300円、半期4,700円、1回1,900円)

### 9 内 容 :

本講座「資料は語る」は、日本近代文学館蔵の原稿・書簡・図書・雑誌・写真などの貴重資料の存在を、より多くの方に知っていただきたいという考えから、前身の講座「文学者を肉筆で読む」をリニューアルし2009年度より開講しているものです。

前期・後期各3回で、それぞれ本テーマに造詣や関心の深い文学者・研究者の先生をお招きします。会場には各回の内容に関連する資料を展示し、講師の先生方にはこれらの資料を用いながらお話をさせていただきます。

### 10 プログラム :

- |                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| ①近代医学へのまなざし—斎藤茂吉と青山脳病院         | 講師 : 小泉博明 |
| ②劇場と撮影所—高見順『東京暮色』              | : 武藤康史    |
| ③生活を支えた本郷菊坂の質商—樋口一葉と伊勢屋質店      | : 山崎一穎    |
| ④東京にて。恋と労働の雌伏—林芙美子『放浪記』        | : 江種満子    |
| ⑤にじむ加筆・訂正の跡—夏目漱石『道草』           | : 石崎 等    |
| ⑥夢と現実—芥川龍之介の軽井沢体験と、短篇『浅草公園』の意味 | : 池内輝雄    |

※各回の内容は講師によって変更する場合あり。

## 資料の声を聞く 文学館演習—日本近代文学資料の探索と処理

8月23日（火）～27日（土）午前10時～午後5時10分  
（1日4コマ、計コマ30時間、2単位）、館ホール

### 第1日 総論

オリエンテーション  
近代文学館とは  
日本近代文学館の所蔵資料とその意義

#### 資料の収集・活用

資料を活用する研究法（講義・演習）（1）自筆資料（書簡・ノート）

資料を活用する研究法（講義・演習）（2）図書

### 第2日 資料を活用する研究法（講義・演習）（3）雑誌

図書の利用（実習）

雑誌の利用（実習）

挿絵・写真資料の調査・保存（実習）

### 第3日 資料を活用する研究法（講義・演習）（4）新聞

肉筆資料の解読（実習）

#### 同時代資料の解読

文学と大衆・女性（講義・演習）

出版メディアの戦略・検閲（講義・演習）

### 第4日 文学の周辺

文学と映画（講義・演習）

文学と美術・音楽（講義・演習）

#### 資料の保存・公開・展観

資料の保存・修理（実習）

資料の公開・展観（実習）

### 第5日 文学をめぐる問題

原稿の生成とデジタル化の問題（講義）

草稿・注釈をめぐる問題（講義）

#### 総括

近代文学館に対する要望（質疑応答）

反省会